

2026年度 入学試験問題 B 日程・午前

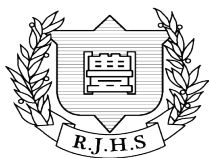
国語

2026年1月18日（日）実施

【注意事項】

1. 解答は必ず解答用紙の指定された枠^{わく}内に楷書^{かいしよ}で、濃^こく、はっきり記入すること。
2. 問題は1ページから14ページまでです。解答用紙は表と裏の両面あります。
3. 試験開始の合図があるまで、問題を開かないこと。合図があったら、必ず問題用紙と解答用紙に受験番号と名前を忘^{わす}れずに記入すること。
4. 問題用紙を破^{やぶ}ったり切り取^{きり}ったりしないこと。
5. 解答を書き直す場合は、前のものをしっかり消^けすこと。
6. とくに指示がない場合、句読点、記号などはすべて一字と数えます。
7. 問題作成上、文章の表現をかえたり、省略したりしているところがあります。

受 験 番 号	名 前



履正社中学校

一 次の文章を読んで、後の問いにそれぞれ答えなさい。

「ひとりの人を理解するまでには、すくなくとも、一トンの塩をいっしょに舐めなければだめなのよ」
ミラノで結婚してけっこんまもないころ、これといった深い考えもなく夫と知人のうわきをしていた私にむかって、姑が
いきなりこんなことをいった。とつさにたとえの意味がわからなくて **A** とした私に、姑は、自分も若いころ姑
から聞いたのだといって、こう説明してくれた。

一トンの塩をいっしょに舐めるっていうのはね、うれしいことや、かなしいことを、いろいろといっしょに経験
するという意味なのよ。塩なんてたくさん使うものではないから、一トンというのはいへんな量でしょう。それ
を舐めつくすには、長い長い時間がかかる。まあいつてみれば、気が遠くなるほど長いことつきあっても、人間は
なかなか理解しつくせないものだって、そんなことをいうの。他愛ないたあいうわき話のさいちゅうに、姑がまじめな顔
をしてこんなたとえを持ち出したものだから、新婚しんこんの日々をうわの空で暮らしていた私たちのことを、人生つて、
そんな生易しいものじゃないんだよ、とやんわり釘を「**1**」れたのかと、そのときは **B** としたが、月日が
経つうちに、彼女がこのたとえを、折に触れ、かのじょときには微妙にニュアンスをずらせて用いることに気づいた。塩を
いっしょに舐めるというのが、苦労をとにもする、という意味で「塩」が強調されることもあり、
① はじめて聞いたときのように「一トンの」という塩の量が、たとえのポイントになったりした。

文学で古典といわれる作品を読んでいて、ふと、いまでもこの塩の話の思い出すことがある。この場合、相手は
書物で、人間ではないのだから、「塩をいっしょに舐める」というのもちよつとおかしいのだけれど、すみからす
みまで理解しつくすことの難しさにおいてなら、本、とくに古典とのつきあいは、人間どうしの関係に似ているか

もしれない。読むたびに、それまで気がつかなかった、あたらしい面がそういった本にはかくされていて、ああこんなことが書いてあったのか、と新鮮しんせんなおどろきに出会いつづける。

長いことつきあっている人でも、なにかの拍子ひょうしに、あつと思うようなことがあつて衝撃しょうげきをうけるように、古典には、目に見えない無数の襞ひだが隠かくされていて、読み返すたびに、^②それまで見えなかった襞がふいに見えてくる

ことがある。しかも、一トンの塩とおなじで、その襞は、相手を C したいと思いつづける人間にだけ、ほんの少しづつ、開かれる。イタリアの作家カルヴィーノ※は、こんなふうに書いている。

「^③古典とは、その本についてあまりいろいろ人から聞いたので、すっかり知っているつもりになつていながら、いざ自分で読んでみると、これこそは、あたらしい、予想を上まわる、かつてだれも書いたことのない作品と思える、そんな書物のことだ」

「自分で読んでみる」という、私たちの側からの積極的な行為こういを、書物はだまって待っている。現代社会に暮らす私たちは、本についての情報に接する機会にはあきれるほどめぐまれていて、だれにも「あの本のことなら知っている」と思う本が何冊もあるだろう。ところが、ある本「についての」知識を、いつのまにか「じつさいに読んだ」経験とすりかえて、私たちは、その本を読むことよりも、「それについての知識」をてつとり早く入手することで、お茶を「²」しすぎているのではないか。ときには、部分の抜粋ぼつすいだけを讀んで、全体を讀んだ氣になつてしまうこともあつて、「本」は、ないがしろにされたままだ。相手を直接知らないことには、恋こいがはじまらないように、本はまず、そのもの自体を讀まなければ、なにもはじまらない。

さらに、こんなこともいえるかもしれない。私たちは、詩や小説の「すじ」だけを知ろうとして、それが「どんなふう」に書かれているかを自分で把握はあくする手間をばくくることが多すぎないか。たとえば^④漱石そうせきの『吾輩は猫である』

る』を、すじだけで語ってしまったら、作者がじつさいに力を入れたところを、きれいに無視するのだから、ずいぶん貧弱な愉しみしか味わえないだろう。おなじことはどの古典作品についてもいえる。読書の愉しみとは、ほかでもない、この「どのように」を味わうことにあるのだから。

カルヴィーノのいうように、⑤「読んだつもり」になっていた本をじつさいに読んで、そのあたらしきにおどろくこともすばらしいが、ずっと以前に読んで、こうだと思っていた本を読み返してみても、まえに読んだときとはすっかり印象が違つて、それがなんともうれしいことがある。それは、年月のうちに、読み手自身が変わるからで、子供のときには喧嘩したり、相手に無関心だったりしたのに、おとなになってから、なにかのきっかけで、深い親しみをもつようになる友人に似ている。一トンの塩を舐めるうちに、ある書物がかけがえのない友人になるのだ。そして、すぐれた本ほど、まるで読み手といっしょに成長したのではないかと思えるくらい、読み手の受容度が高く、あるいは広くなった分だけ、あたらしい顔でこたえてくれる。それは、人生の経験がよりゆたかになったせいのこともあり、語学や、レトリックや文学史や小説作法といった、読むための技術をより多く身につけたせいのこともある。古典があたらしい襞を開いてくれないのは、読み手が人間的に成長していないか、いつまでも素手で本に挑もうとするからだろう。学生のころ、古典だからという理由だけのために、まるで薬でも飲むようにして翻訳で読み、感動もなにもなかったウェルギリウスの叙事詩『アエネイス』を、ほとんど一語一語、辞書をひきながらではあってもラテン語で読めるようになって、たとえば、この詩人しか使わないといわれる形容詞や副詞や修辭法が一行をすつくと立ちあがらせているのを理解したときの感動は、ぜったいに忘れられない。

「こんなふうにも読めるし、あんなふうにも読めるから、ほんとうはどういう意味なのかわからない。だから本はむずかしいのよね」

一トンの塩の話をしてくれた姑は、よく私たちにこういって、⑥「素手」でしか本を読めない自分をせつながつた。ミラノを東に一〇〇キロほど行ったあたり、ブレーシャ市の在のまづしい農家に生まれて、小学校へもろくに行けなかった彼女は、それでも、しんそこ読書の好きな人だった。私がたずねて行くと、つくろい物をしていないときは、食事のあとクロスをとった、木目のみえる古いキッチンテーブルいっぱいに本や新聞をひろげて、まるで片端から食べてしまいうような勢いでつぎつぎと読んでいた。ほんとうは、フォトロマンゾ（日本語なら「写真小説」というところ）が好きだったのを、私の手まえはずかしがっていて、そのことをかくしていたから、私はながいことそれを知らなかったのだが、これは、センチメンタルなラブ・ストーリーや、離ればなれになつていた実の親子が再会するまでといったていの、いずれも安直にロマンスめいた物語が、安っぽい写真と手書きふうのキャプションで語られる、モノクロのグラビアで、ちゃんとした本屋には売ってなくて、街角のキオスクで毎週、新しいのを買う。

姑が「こんなふうにも読めるし、あんなふうにも読める」といって悩んでいたのは、このフォトロマンゾではなくて、息子むすこの勤め先の書店で売っているような「ほんもの」の小説のことで、そのなかには、彼の友人で、まだ無名のころ姑のところにもよく食事にやってきた作家のエリオ・ヴィットリーニの、シニールとネオ・リアリズム※が奇妙にまざった、そのころ、もてはやされた作品もあった。

「あんないい子なのに」と姑はまるで家に来なくなつたヴィットリーニのことを思い出してよくいった。「書くものは、むずかしいばかりで、さっぱりわからない」

わからないといいながらも、姑は読むことそのものが好きなので、昼食のあと、息子がちよつと横になりしんしつに寝室に行っているあいだなど、大きなためいきを連発しながら、古い本棚から抜きだしてきた「小説」を読んでいるこ

とがあつた。フオトロマンゾや小説類は⑦ むさぼるように読んでいた 姑だったが、映画俳優や王家の人たちやプレイ・ボーイの写真がたくさん載っている、鉄道官舎の彼女の隣人たちがまわし読みにしているたぐいのスキャンダル雑誌を、彼女はけっして読まなかった。ほんとうのことかもしれないような話は、うそかもしれないから、おもしろくないのよ、といつて。

「こんなふうにも読めるし、あんなふうにも読めるから、いい小説なんだよ」

夫がそういうと、姑は、勝手なことをいって、おまえのいうことなんてぜんぜん信用するものか、という顔をしたらけれど、書店に出かける息子を送り出すときの彼女は、かがやいていた。

⑧ その姑も、そして夫も、じっくりいっしょに一トンの塩を舐めるひまもなく、はやばやと逝※いってしまった。

すがあっこ
(須賀敦子『塩一トンの読書』より)

※姑……夫の母。

※カルヴィーノ……キューバ生まれの小説家。

※在……周辺。

※キャプション……印刷物で、写真にそえた説明文。

※シニールとネオ・リアリズム……詩や文学・絵画における前衛的な芸術運動とイタリアで起こった革新的な

映画運動。

※逝なつて……亡くなつて

問一 **A**・**B** にあてはまる言葉としてもっとも適当なものを次のア～オの中から選び、それぞれ記号で

答えなさい。ただし、各記号は一度しか使えません。

ア ひやり イ ほつ ウ はらはら エ きよとん オ ぼんやり

問二 **C** にあてはまる言葉としてもっとも適当なものを本文中から二字でぬき出して答えなさい。

問三 「1」・「2」にあてはまる言葉をそれぞれひらがな二字で答えなさい。

問四 線①「はじめて聞いたときのよう」にあります。このときの「一トンの塩をいっしょに舐める」とはどういう意味での言葉ですか。そのことが説明されている部分を本文中から三十六字でさがし、初めと終わりの五字をそれぞれぬき出して答えなさい。

問五 線②「それまで見えなかった襷」にあります。これと同じことを意味している言葉を本文中から十九字でさがし、初めと終わりの五字をそれぞれぬき出して答えなさい。

問六 線③「古典とはくそんな書物のことだ」にあります。これに関連する四字熟語として、もっとも適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 意味深長 イ 因果応報 ウ 温故知新 エ 我田引水 がでんいんすい

問七 線④「漱石」とありますが、この人物の姓を漢字で答えなさい。

問八 線⑤「『読んだつもり』になっていた」とありますが、これはどういうことですか。「知識」という言葉を使って三十字～四十字で答えなさい。

問九 — 線⑥ 『素手』でしか本を読めない」とありますが、これはどういうことですか。次の文の に

あてはまる言葉を本文中から七字でさがし、ぬき出して答えなさい。

なしで本を読むこと。

問十 — 線⑦ 「むさぼるように読んでいた」とありますが、これと同じ意味内容でたとえを使って表現している部分を本文中から三十字以内でさがし、初めと終わりの五字をそれぞれぬき出して答えなさい。

問十一 — 線⑧ 「その姑もくはやばやと逝つてしまった」とありますが、ここから考えられる作者の気持ちとして、最も適切なものを次のア、イ、ウ、エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 今後、苦勞しなくてもよいのでよかったと安心している。

イ もっといっしょにいて、いろいろな面を知りたかったとくやしく思っている。

ウ もっと早くわかってあげられたらよかったと後悔こうかいしている。

エ もっと本について論じたかったと残念に感じている。

二 次の文章は、ある中学校で実施した海釣り体験学習で、インストラクターの方が話した内容です。以下の文章と資料を読んで、後の問いにそれぞれ答えなさい。

みなさん、おはようございます。今日は初めての海釣り体験ということで、まずは道具の使い方や安全な釣り方について説明しますね。今日は堤防^{ていぼう}でのサビキ釣りですが、漁港の突堤^{とつてい}は①足場が悪い場所もあります。例えばコンクリートの上は海水でぬれてすべりやすいですし、ところどころ段差もあるので、絶対に走ったりふざけたりしないでください。また、自分の荷物はしっかりまとめ足元に置いておきましょう。堤防は意外と狭い^{せま}ですし、荷物が散らばっているとつまずいて転んでしまう危険があります。それから、こちらで用意したライフジャケットは全員必ず着用してください。海に近い場所では、もし足を滑^{すべ}らせたらか大きな事故につながります。今日は風もありますし、万一に備えて安全第一でいきましょう。

それでは、サビキ釣りの説明です。釣り竿と仕掛け^{ざお ※ し か}、エサはこちらで用意しています。サビキ釣りは、小さな針がたくさんあり、その下についているカゴにアミエビというえさを入れて、海中にまくことで小さな魚を狙^{ねら}う釣り方です。アジやイワシ、小サバが釣れやすく、初心者でも比較^{ひかくてき}的かんたんに体験できますよ。みなさんのバケツには、すでにアミエビを小分けにしてありますので、使うときにスプーンでカゴに入れてくださいね。ただし、アミエビはカゴに入れすぎないこと。たくさん入れれば魚が寄ってくるというわけではありません。逆に、海水がにごってしまったって魚がにげることもあります。アミエビは少しずつ足しながら使うのがポイントです。

次に、釣り竿の使い方です。竿を持ったとき、後ろの人や周りの人にぶつからないように注意してください。サビキ釣りでは竿を大きく振る必要はありません。まっすぐ下ろすようにすれば十分です。水深はだいたい5メートルから7メートルありますので、仕掛けがまっすぐ下に落ちるように調整してくださいね。

それから、魚が釣れたときの注意です。魚がかかったら、釣り竿が震えるので、落ち着いてリールを巻いてください。サビキ釣りは魚が一度に2匹、3匹かかることもあります。針がたくさんあるので、手で直接さわると危険です。必ず魚つかみを使って外すようにしましょう。もし外れないときは、近くのインストラクターを呼んでください。

今日の堤防は港の内側なので波は穏やかですが、足元には十分注意してください。海藻がついている場所は滑りやすいですし、特に干潮時と満潮時では足場の状態が変わります。みなさんには潮の時間をまとめた表（資料1）をお配りしていますね。サビキ釣りでは、魚がよく動く時間帯に合わせて仕掛けを入れることが大切です。特に朝や夕方は魚の活性が高く、釣果につながりやすいので、潮の動きとあわせて時間を選ぶようにしましょう。

資料1

時刻	潮の状態	潮位 (cm)
3:00	下げ始め	150
4:30	下げ潮	120
8:30	干潮	80
9:00	上げ始め	95
10:00	上げ潮	115
13:00	満潮	155
14:30	下げ始め	140
15:00	下げ潮	110
16:30	干潮	75
17:30	上げ始め	85
18:00	上げ潮	120
20:00	満潮	160

もうすぐ干潮ですから、しばらくは潮の流れが止まっています。そのあと一時間もしないうちに潮が動き始め、水位が上がってくると、魚の活性が上がりますので、^②そのころから安全な位置で釣りを開始しましょう。あと、釣った魚の扱い^{あつか}についてです。今日はアジやイワシ、小サバが釣れると思いますが、持って帰る魚はクーラーバックに入れて冷やしておきましょう。ただし、あまりにも小さい魚は持って帰らずに必ず^③海^{もて}に戻してください。

最後に、釣りが終わったら道具を洗ってから返してくださいね。アミエビのにおいが残ると次に使う人が困りますし、道具をきれいに保つのも大切なマナーです。また、ゴミは必ず持ち帰りましょう。^④釣り場ではマナーを守ることが大切です。

ではこれから実際に釣りをはじめます。スタッフが一緒^{いっしょ}についてお手伝いしますので安心してください。安全に気をつけて、楽しく体験していきましょう！

※仕掛け……道糸（リールに巻かれたメインの糸）の先に結びつけ、魚を釣るために必要な針やウキなどの道具一式を組み合わせたもの。

※リール……釣り竿に取り付けて釣り糸を巻き取るための道具。

※釣果……魚釣りの成果や、釣れた魚の量。

問一 — 線①「足場が悪い」とありますが、これはどういう状態のことですか。もっとも適当なものを次のア

イエの中から選び、記号で答えなさい。

ア 地面がぬれていてすべりやすい状態のこと

イ 足を置く場所がせまく、立つ位置を選びにくい状態のこと

ウ 満潮時には、足場が水中に沈む^{しず}状態のこと

エ 波が高くて釣りにならない状態のこと

問二 — 線②「そのころ」とありますが、この日の釣りの開始に適する時間としてもっとも適当なものを次の

アイエの中から選び、記号で答えなさい。

ア 午前8時ごろ

イ 午前9時ごろ

ウ 午前10時ごろ

エ 午後1時ごろ

問三 — 線③「海に戻してください」とありますが、釣った魚を海に戻すことを「キャッチアンド」と

いいです。に入るもっとも適当な言葉を次のアイエの中から選び、記号で答えなさい。

ア リユース イ リリース ウ リサーチ エ リベンジ

問四

——線④「釣り場ではマナーを守ることが大切です」とありますが、次のア～エは、釣り場でのマナーの例です。この中から自由に一つ選び、そのマナーを守らなかった場合に起こりうる危険や迷惑を、「このマナーを守らないと～」に続く形で答えなさい。

ア 使った道具やごみを持ち帰る。

イ 周囲の人との距離きよりを保って釣りをする。

ウ 大声を出したり走り回ったりしない。

エ 立ち入り禁止の場所に入らない。

問五 次の文は、釣りの手順についての説明です。正しい順番になるように次のア～エを並べかえ、記号で答えなさい。

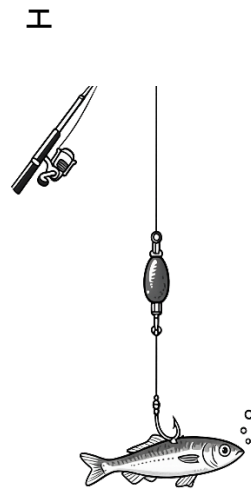
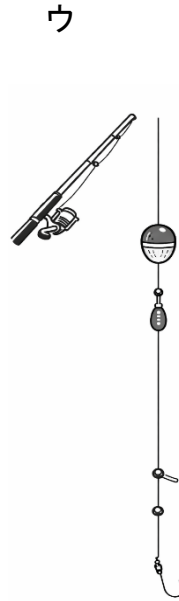
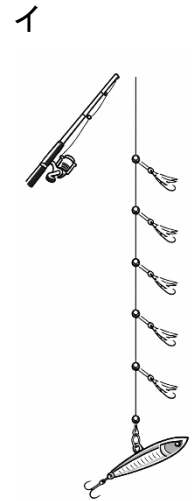
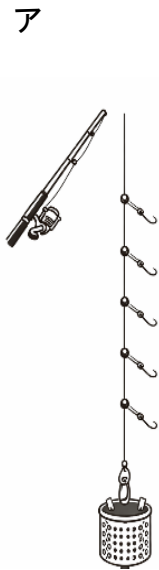
ア 釣り竿にサビキ仕掛けを結び付け、カゴにアミエビを入れる。

イ アミエビを入れた仕掛けを静かに海に落とし、竿の動きや、手元に伝わる振動を注意深く捉とらえる。

ウ 足場の安全を確かめ、ライフジャケットをきちんと着用しているか確認かくにんする。

エ 魚がかかったら、慌あわてずにリールを巻き上げ、針から外してクーラーボックスに入れる。

問六 サビキ釣りの仕掛けとしてもつとも適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。



問七 次の(1)～(4)について、本文の内容と一致していれば○で、一致しなければ×でそれぞれ答えなさい。

(1) インストラクターは、「サビキ釣りは初心者に最適」と説明しているが、これは釣り竿や仕掛けが単純だからではなく、潮や時間に関係なく釣れるからだと言っている。

(2) インストラクターは突堤での釣りは足場が悪い場所もあるため、必ずライフジャケットを着用すべきだと述べている。

(3) インストラクターは、魚が動く時間帯は朝や夕方などの時間と、潮の動きが関係しており、釣果を上げるにはそれを意識する必要があると言っている。

(4) インストラクターは、サビキ釣りは、遠くに飛ばしたほうが釣果が上がるので、5メートルから7メートル投げる言ことがコツだと述べている。

三 次の問いにそれぞれ答えなさい。

問一 次の①～⑤の漢字に共通する部首を補って熟語を作り、それぞれ漢字で答えなさい。また、補った部首の名前もそれぞれ答えなさい。

例…… 干 + 由 ↓ 宇宙・うかんむり

- ① 非 + 憂 ② 倉 + 干 ③ 田 + 相 ④ 幾 + 戒 ⑤ 乎 + 及

問二 次の①～⑩の——線のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに、それぞれなおしなさい。

- | | |
|-------------------|-------------------------------------|
| ① 相手をハナであしらう。 | ② 二つを比較 <small>ひかく</small> タイショウする。 |
| ③ 失敗にもめげずに再起をハカる。 | ④ 勝利をカクシンする。 |
| ⑤ 努力は成功の大事なヨウソだ。 | ⑥ この電車は九両編成だ。 |
| ⑦ 細心に事を運ぶ。 | ⑧ あと二日で合格発表です。 |
| ⑨ 一筋の光明が見える。 | ⑩ 支出の内訳を調べる。 |

問題は以上で終了です。
しゅうりよう

国語

2026年度 入学試験 B日程 午前 解答用紙おもて

履正社中学校

名前

受験番号

※

記入しない

一									
問十	問九	問八				問六	問五	問四	問一
									A
						問七			B
									問二
ㄱ							ㄱ	ㄱ	
									問三
									1
									2
問十一									

なしで本を読むこと。

30

二					
問七	問五	問四			問一
(1)				このマナーを守らないと、	
(2)	↓				問二
(3)	↓				問三
(4)	↓				
	問六				

うらに続きます

国語

2026年度 入学試験 B日程 午前
履正社中学校 解答用紙 うら

三				
問二		問一		
⑥	①	⑤	③	①
		部首	部首	部首
⑦	②			
⑧	③		④	②
			部首	部首
⑨	④			
⑩	⑤			

名前

受験番号

※
記入しない

一									
問十	問九	問八				問六	問五	問四	問一
ま	読	う	経	を	例 ある	ウ	そ	気	A
る	む	こ	験	、	る		れ	が	エ
で	た	と	と	じ	本	問七	ま	遠	B
片	め	。	す	っ	に	夏目	で	く	ア
端	の		り	さ	っ		気	な	問二
ゝ	技		か	い	い		ゝ	ゝ	理
読ん	術		え	に	て		た	せ	解
んで	なしで本を読むこと。		て	読	の		ら	な	問三 1
でい			し	ん	知		し	い	さ
いた			ま	だ	識		い	も	さ 2
た。							面	の	に
問十一									ご
イ									

二					
問七	問五	問四			問一
(1)	ウ	釣りのじゃまにもなる。 このマナーを守らないと、周囲の人が驚いて竿につまずくなど 事故が起こる恐れがある。また、魚がにげて周囲の人の			ア
×					問二
(2)	↓				イ
○	ア				問三
(3)	↓				イ
○	イ				
(4)	↓				
×	エ				
	問六				
	ア				

うらに続きます

国語

三				
問二		問一		
⑥	①	⑤	③	①
へんせい	鼻	呼	思	俳
		吸	想	優
		部首	部首	部首
		くち・くちへん	したごころ	にんべん
⑦	②			
さいしん	対照			
⑧	③			
にふにつちか	図		④	②
			機	創
			械	刊
			部首	部首
⑨	④		きへん	りっとう
ひとすじ	確信			
⑩	⑤			
うちわけ	要素			